

特集

第37回 全国高校駅伝競走大会

市立船橋高校日本一の栄冠

街角特集 着々と進む市制50周年記念事業

まちなかの文化財 灯明台

広報ふなばし写真版

JANUARY 1月

vol 17

隔月年6回発行



PHOTO
ふなばし

市立船橋高校日本一の栄冠



ヤッタ！ アンカー小池選手は2位の報徳学園（兵庫）の木戸選手に約80メートルの差をつけてゴールイン。優勝タイム2時間6分30秒は高校新記録、並びに大会新記録であった。



大会の翌12月22日午後3時、消防局のカラーガーズと音楽隊に先導され、船橋駅から市役所まで優勝パレードが行われた。16年ぶりに箱根の山を優勝旗が越えついにこの船橋にやってきた。



6区の渡辺選手はトップと2秒差の2位と大きく差を縮める快走をみせた。藤沢商業（神奈川）の大場選手と記録をわける区間賞を獲得。



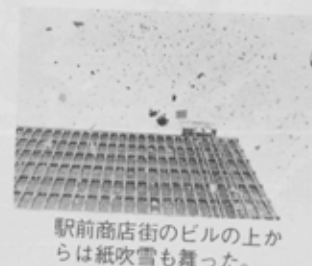
各校のエース級が揃う「花の一区」を力走する大胡選手。



4区を快走する主将の中瀬選手。トップとの差を29秒に縮めた。



市役所では大橋和夫市長が一行を出迎え、選手一人ひとりの健闘をねぎらった。



駅前商店街のビルの上からは紙吹雪も舞った。



全国制覇の祝福に沿道には大勢の市民がつめかけて声援がおくられた。



小出義雄監督の手をとって労をねぎらう大橋和夫市長。左はコーチの渡辺敏彦教諭。

淡いブルーのユニホーム、胸にあせー平君のマークをつけた小池選手がさっそうとトップで西京極陸上競技場のトラックに戻ってきた。大歓声の中、ガッツポーズをとって見事ゴールイン。この瞬間に船橋市民の願いが実現、大きな喜びにつつまれたのでした。

第37回全国高校駅伝競走大会は、昨年12月21日（日）、京都・西京極陸上競技場を出発点とする7区間、42・195キロメートルのコースに、全国都道府県代表47校が参加して行われました。千葉県からは市立船橋高校が昨年に引続いて2度目の出場をはたしましたが、2時間6分30秒の大会新記録で見事、初優勝を飾りました。なおこの優勝で16年ぶりに優勝旗が箱根の山を越えましたが、これは千葉県としても勿論初めての快挙です。

レースは市立船橋が一区でトップとの差190メートルの12位とやや出遅れたものの、二区では福林選手が6人をつぎつぎと抜き、一気に6位に浮上。さらに三区、四区でトップとの差を次第に縮め五区に入るも鶴淵選手が区間最高記録の8分39秒という快走を見せ3位に。六区に入ると渡辺選手も藤沢商業（神奈川）大場選手と区間賞をわける激走を見せ一気に藤沢商業に次ぐ2位に上がりました。そしてついに七区では市立船橋と藤沢商業が肩を並べましたが2キロメートルすぎに市立船橋の小池選手が猛然とスパイク。藤沢商業は報徳学園（兵庫）に抜かれ3位に後退。後半のスピードに定評のある報徳学園の執拗なネバリに、もしやの不安をいだかせましたが、見事小池選手がそのまま約80メートルの差をつけてゴールイン。初優勝の栄冠を勝ちとりました。市立船橋は前年の大会を13秒も上回る全国高校最高タイムを出し、2位の報徳学園も昨年のV3タイムと同じ全国高校タイ記録。そして何と20位まで、2時間10分台というレベルの大変高い厳しい大会でした。船橋市は今年市制50周年を迎える記念すべき年。市立船橋の優勝はこの記念すべき年の幕開けにふさわしいすばらしい快挙でした。

沿道には駅伝ファンが大勢つめかけてにぎやかな声援がおくられる。



試合後の表彰式で優勝旗、トロフィーなどを授与される選手達。鯛淵健二、渡辺重治の両選手は区間賞も獲得した。



大会会長から勝利監督賞を授与される小出義雄監督。



競技場でマスコミ関係者の取材を受ける選手達。



夕食後選手達が集まってミーティングが開かれた。皆大試合の前夜とは思えぬ程明るい。



宿舎ではさつそく優勝祝賀会が開かれた。スキ焼とジュースが美味しそうだ。



優勝の記念メダルを首にかけてもらう選手達。一昨年は初出場ながら4位入賞をはたしている。



選手達の胴揚げで宙に舞う小出義雄監督。予想タイムと僅か2秒差という綿密な作戦で選手達を見事にリードした。



消灯前の楽しい一時。明日の作戦はすでに胸にきざみこんだ。



小出魔術と評される緻密な作戦が的確に選手達に指示されてゆく。



部屋でリラックスする選手達



食事の後かたづけも選手達の仕事。



大会の興奮さめやらぬ競技場で記念撮影。父兄の皆さんもほっと一息。



勝利の喜びにわく市立船橋高校の生徒達。市制50周年記念の幕開けにふさわしい、素晴らしい快挙だった。



市立船橋高校でレースの進行をかたずきのんで見守る生徒達。



試合当日の朝、宿舎近くの平安神宮に必勝祈願する父兄の皆さん。



この旺盛な食欲の特別な原動力

着々と進む

市制50周年記念事業

いよいよ市制50周年の記念すべき年の幕開けです。市ではこの50周年を記念して、現在ワンパク王国の建設や数々の事業を進めておりますが、ここではその中の一부를途中報告として紹介いたします。
(写真撮影・62年1月8日)



武道センター(市場)

船橋市は「スポーツ健康都市」を推進しています。日本の伝統スポーツである相撲、柔道、剣道、なぎなた、空手、合気道など武道の訓練の場として(仮称)武道センターが市場に現在急ピッチで建設されています。62年4月開館予定です。



下総・神保緑の郷にワンパク王国

子供たちのアイデアによって生まれたワンパク王国が市内北部下総・神保緑の郷の中に建設されています。ワンパクトリデ、丸太小屋づくりコーナー、フィールドアスレチック、そして自由に動物に触れ一緒に遊べるコーナーなど盛りだくさんの楽しい王国がこの秋に完成、オープンします。



海老川に夢のある橋

海老川には、国道14号の船橋橋から市立医療センター付近の向田橋まで11本の橋がかかっていますが、この11本の橋が全て夢のある楽しい橋に生まれ変わります。その一つ本町通り海老川橋には120歳の泉重千代さんの世界に一つしかない手形が欄干に埋めこまれ7月の産業まつりにオープン式が行われる予定です。



総合教育センター(東町)

船橋の教育の充実と振興のために建設されるものでドーム型のプラネタリウムをもつ8階建ての新築建物です。1階～4階「教育センター」、5階～7階「視聴覚センター」、8階天文観測室がなります。62年4月開館予定です。



大神宮の丘の上に立つ「灯明台」

新しい文化財

⑬ 大神宮灯明台 (県指定文化財)

〔所在地〕市内宮本5-2

軒と軒とが重なり合うような狭い路地を歩き、意匠にこぼれる灯りに出あつたりすると、何ともいえない懐かしさを感じる。灯りと一緒には一家団樂(だんらん)の笑い声さえ流れている。ほっとする。

船橋大神宮境内の、一段高い小丘の上に立つ「灯明台」の灯りも、おそらく船橋の漁師達にとり、幾年月にわたって心の支えであり続けたにちがいない。付近の海上からは絶好の航路の目印であるとともに、ほとんどの信仰の対象でもあったかと思われる。

現在の灯明台は、あるお役所の正式資料に「明治十三年十月点灯」との記録が見られるというし、三世重福(成田土産名所)十枚のうち一枚「船橋大神宮」は明治二十三年の作品だが、その錦絵の中にも洒落(しゃれ)た灯台が見える。最初は信仰による灯明(台)だったが、洋式灯台の影響をうけて、和洋折衷の特殊な建造物として建築され、明治の文明開化を象徴する建物になっている。一時破損がひどかったが昭和四十年解体修理し立派に復元された。いま毎年正月には灯明台祭が催される。

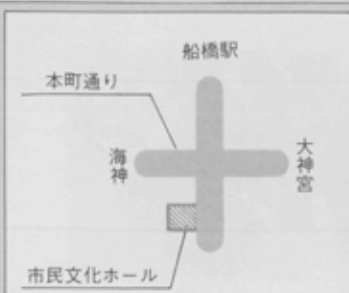


毎年1月14日にはこの灯明台の点灯式(灯明台祭)が行われている

第8回

船橋市写真展

- 昭和62年1月31日(土)～2月8日(日)
AM 9:00～PM 6:00(8日はPM 4時まで、月曜休館)
- 船橋市民文化ホール 2F展示室
(主催 船橋市教育委員会・船橋市写真連盟)



船橋市は「平和都市」を宣言しました

宣言文

船橋市は、現在人口51万人を擁する首都圏有数の中核都市に成長し、第2の飛躍期を迎えている。そして、「活力ある近代的都市」を市政の目標に掲げ、より豊かな福祉社会実現のため懸命の努力を続けているところである。

しかし、郷土船橋の限りない繁栄は、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

私たち船橋市民は、世界の恒久平和を願い、我が国の国是である非核三原則を遵守し、平和を脅かす核兵器の廃絶を目指して最大の努力を払うことを決意し、ここに「平和都市」を宣言する。



昨年12月19日の定例会議最終日に「平和都市宣言」を行う大橋和夫市長



市制施行50周年を記念して作られた市民愛唱歌「大船橋音頭」の作詩・歌唱を担当された歌手の三波春夫さんが、この程大橋和夫市長との記念対談のため市役所を訪れました。大橋市長の案内で、電算室や市民課などの窓口を見学。50万都市船橋について熱心な質問をされていました。写真は市長らの見守る中、「悠然と大船橋の初日の出」と得意の書を披露する三波春夫さん。

スポーツで健康ふなばし こんにちは…



編集だより

市立船橋高校逆転初Vの瞬間の感激は西京極陸上競技場へ向かうタクシーの中で。6区の渡辺選手の力走を中継点付近で撮影したあと、待たせてあったタクシーに飛び乗った。ゴールまでは車がひどく渋滞していてとても間にあわないが、競技場には既に3区から戻ったY君がスタンドから望遠レンズで待ちかまえているはずである。後はアンカーの小池選手がなんとか頑張ってトップで飛び込んでくれたら…。しかし数十分後もの見事にその夢が実現してしまったのだ。市船ファンの運転手さんと二人、車の中で声にならぬ声を

あげて興奮してしまった。Y君は競技場を一周するアンカー小池選手を撮るのに「手が震えてどうしようもなかったんです」と笑顔でふり返る。その夜、宿舎での祝勝会を撮影後最終のひかり号で一路市役所へ。待ち構えていた課員たちによって、撮影されたフィルムが深夜の暗室で早速現像された。そしてベタ焼き、引伸し、パネル張りや夜通しの全作業が終わり、かろうじてパネルを1階美術コーナーに並べ終えたのは、優勝パレード一行が市役所を訪れるほんの数分前のことなのでした。